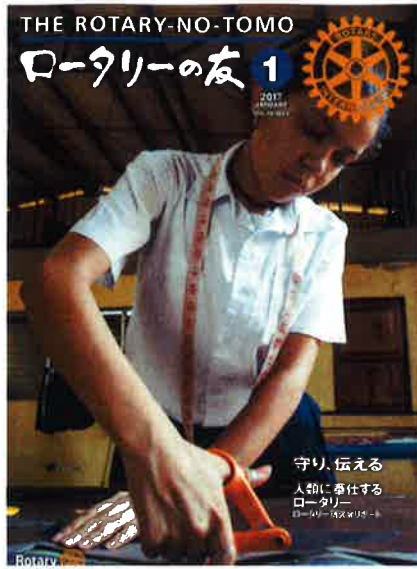


# 友のお供新聞

水戸RC  
雑誌委員会

## 守り、伝える文化

### ロータリーの取り組み



ロータリーの友1月号の表紙

地域の伝統や文化は、後継者や資金不足など様々な課題を抱えています。今回の特集では、こうした伝統文化を支えるロータリークラブの活動を紹介しています。(●横組み7P)

特集で紹介されているのは、甘木盆俄(甘木RC)、堺かるた(堺フェニックスRC)、松前神楽(稚内RC)、はこた人形(倉吉RC)。



甘木娘晒舞

C)、雅楽(岡崎東RC)、会津田島祇園祭子供歌舞伎(田島RC)。甘木盆俄(にわか)は、お盆の時期に「にわか」に演じる一歌舞伎で、起源は元禄時代の風流にさかのぼる。

とされ、1954年を最後にその歴史が途絶えていました。1981年に保存会が発足したことを受け、甘木RCが資金支援や会員出演で協力、継続しているそうです。

倉吉RCは、約230年の歴史を持つ倉吉の郷土玩具「はこた人形」の文化伝承のため、今年度の地区補助金プロジェクトに取り組んでいます。観光客向け説明板の提供や子供たちの人形制作体験など。

## ロータリー財団百周年

### 記念シンポで学友が恩返し

ロータリー財団100周年を祝う記念シンポジウム

が11月27日、東京都内で行われ、収容人数を超える800人が参加しました。

シンポジウムでは、元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏へのロータリー財団100周年学友世界人道奉仕賞の授与が発表されました。

緒方氏は、1951年、日本で2人目のロータリーフェローとしてワシントンのジョージタウン大学の修士過程で学びました。

## ロータリーの友を読もう

1月号で特に印象に残ったのは、横組20ページから特集が組まれた第45回ロータリー研究リポートです。「今、ロータリーはどこへ行くか」として「いるのか」の副題で解説しています。

研究会の招集者である齋藤直美RI理事は会の冒頭、「ソウル国際大会でジョン・F・ジャームRI会長はロータリーの潮目が変わったとつぶやかれた」と紹介。2016年4月に開催された規定審議会の結果を受けてロータリーの歴史が転換した年であったことを強調しました。

国際ロータリー定款第5条第2節のクラブ構成が、6分類的に削減され正会員の定義だけの記載になったことで、地元クラブに於いて新しい会員の種類をクラブ細則に追加し、クラブ会費、地区賦課金、食事、出席要件、奉仕活動参加についてクラブ独自に決定できることになったものです。

### ★職業奉仕はロータリーの根幹?

日本のロータリー100周年委員会ビジョン策定特別委員会委員長の本田博己氏(前橋RC)が、職業奉仕について、世界と日本の違いについて指摘しています。世界は「奉仕部門の一つ」としているのに対し、日本は「職業倫理」。

(●縦組み14P)

### ★東日本大震災支援

山形西RCは東日本大震災被災者支援事業として、宮城県石巻市民との第3回交流辛煮会を開催し、150人が参加しました。同クラブ会員の一人がボランティアグループ「国境なき奉仕団」のリーダーだったことがきっかけ。

(●横組28P)

### ★よねやまだより

タイ出身の元米山奨学生、テムラック・チャオさんは卒業後、世話クラブ(金沢RC)との連絡をほとんど取っていませんでしたが、20年後、「ロータリークラブの会長になる」との約束を果たし、世話クラブに報告に訪れました。

(●横組30P)

### ★世界に売れる日本製品

国際ロータリー第2620地区沼津西RC創立20周年例会の記念講演会で、ピリングシステム(株)代表取締役の江田敏彦氏が「日本で当たり前と思われているものが、海外では特別な商品やサービスになることがある」と話しています。

(●縦組み4P)

(●横組24P)

(風蔭)